

2005年8月30日

北陸研究センター
所長 片山 秀策 殿

北陸研究センター GM イネ屋外実験
差し止め訴訟原告団
代表 山田 稔

情報公開を求める申入書

日頃より新潟県農業発展の為のご尽力に敬意と感謝を申し上げます。

さて、北陸研究センター屋外実験即時中止を求めるGMイネ差し止め訴訟仮処分判決の決定がなされ、申立て却下が出されました。しかし、私達の主張も取り入れた判決であります。いまだ遺伝子組み換え作物に対し、消費者や生産者の根強い反対や拒否反応を示す人が多く、主食のコメであり消費者の抵抗感は一層強く、研究センターの対応が不十分であったと指摘し、GM技術が万全ではなく、予防原則からしても周辺農家や一般消費者に対して、これまで以上に問題点等について正確かつ分かり易い説明をすること。とりわけ本件GMイネに対する周辺農家の交雑の可能性、隔離圃場内におけるディフェンシン耐性菌発生状況等、情報公開し不安感や不信感を払拭する責任があると断言しています。

しかし、この間裁判の中でも判決以後も秘密主義で内容が公開されていません。裁判官の指摘にも従わず、その事が守られておらず、下記の点について厳重に抗議し申し入れ致します。ご多忙の折とは存じますが、9月7日まで文書にてご回答ください。

記

1. 再々にわたり申し込みをしても、テント内の実験に対して情報公開を要求しても、「私たちが入ることができない、お見せすることはできない」と広報担当者は言うておられます。、組み換えイネの交雑防止対策等が裁判所に提出された内容に沿って計画通りになっているのか？パラフィン紙でどのように覆われているのか？開花はいつだったのか？等々、一切の情報を公開せず拒否している理由とかたくなな姿勢をやめ、即日公開していただきたい。
2. 裁判官が指摘された通り、ディフェンシン耐性菌の発生状況と伝播の有無等、私達原告や周辺農家に対し、開発計画遂行課程で得られた情報や実験結果等を積極的に開示すべきと厳しく指摘し、その事が行なわれなければ差し止めを求められてもやむを得ないと言っております。直ちに、ディフェンシン耐性菌の発生状況と伝播の有無について、実験遂行過程で得られたデータを明らかにして欲しいが、今日まで公開されておらず、即日公開していただきたい。
3. 白葉枯れ病実験、イモチ病実験等々、終了している実験データを私達に即時公開していただきたいと考えますが、いかがでしょうか。

104

4. 新潟日報社窓欄の渋谷様の投稿を見られた事と存じますが、遺伝子組み換えイネを作っておられるとの記事が掲載されおりましたが、貴センターではどのような調査をなされたのか、渋谷様のご子息と農業生物資源研究所の田部井部長さんは大学の同期生と言われていますが、組み換えイネだったのですか。即日ご回答ください。

以上